

学校概要

創立 32 周年	学校長 坂村 暁	副校長 高畑 誠	学期 2 学期制	児童・生徒数 552 人
学級数 一般級: 14 個別支援級: 3		主な関係校: 荏田西小学校 東市ヶ尾小学校 市ヶ尾小学校		

学校教育目標

教育理念『自立貢献』

○自分で解決する力を大切にします。(知・公・開)
 ○心豊かに生きる力を大切にします。(徳・体)

学校の特徴

□学区は閑静な住宅街がほとんどで、保護者・地域住民は、教育への関心が高く協力的である。新興住宅地が多く自治会も行事等を通して地域の活性化を図っており、中学生の積極的な参加を期待している。
 □小中ブロックの定期的な交流が定着しており、連携が充実している。
 □学校運営協議会や地域コーディネーターを中心に教育活動への支援が充実している。
 ■素直で真面目に物事に取り組み学習に対しても熱心な生徒が多い。今後は地域や社会に視野を広げ、積極的に周りに関わり学んだことを生かそうとする実践的な態度の育成がさらに望まれる。

学校経営中期取組目標

- ・生徒の学習意欲を高め、確かな学力の向上を図る授業づくりを目指します。
- ・すべての教育活動にキャリア教育の視点を持って臨み、活動を充実させます。
- ・ユネスコスクールとして、ESDの視点を重視する教育活動を展開することにより、人格の発達や自律心、判断力、責任感などの人間性を育むとともに、他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「かかわり」「つながり」を尊重できる個人を育みます。
- ・学習ルームを中心に、特別支援教育を職員全員で推進します。
- ・小中一貫ブロックや家庭・地域と連携し、地域と積極的なつながりのある学校づくりを進めます。

小中一貫教育の取組

市ヶ尾中	ブロック	市ヶ尾中学校・東市ヶ尾小学校・荏田西小学校
9年間で育てる子ども像	○自らの生き方について主体的に考えられる子ども ○社会の中で必要な礼儀やマナーを身に付けた子ども	
自校の具体的取組	・小中一貫教育目標『自立貢献～15の春に向かって～』を意識し、すべての教育活動をキャリア教育の視点で実践する。 ・年6回ブロック校教務主任会を開催し、新教育課程実施にむけて具体的に動き出す。 ・子ども像を共有しながら児童生徒指導や特別支援の情報交換を行う。	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	生徒の主体的な取組と、確かな学力の定着、および思考・判断・表現力の向上をはかる。	①アクティブラーニングを意識した授業改善をさらに進める。②『学ぶ』『働く』『生きる』ことをキャリア教育とESDの視点でつなぎ、実践的な態度につながる学びを推進する。③学習状況調査の結果を分析し、授業改善に役立てる。
豊かな心	自他の人権を尊重し、望ましい生き方についての理解を深めさせるとともに、豊かな人間性の育成と、周りや望ましいつながりをもととする態度を養う。	①ユネスコスクールとして、平和学習やESDの視点から持続可能な社会の実現に向けて具体的な取組を行う。②平和学習、道徳、福祉体験学習、人権特設授業を通じて多様性や人権を尊重する心を育む。③地域の行事に積極的に参加し、地域に期待される中学生の役割をはたしていく。
健やかな体	規則正しい生活習慣の定着を図るとともに、運動に親しむ資質や態度を養うため、運動・健康に対する知識や技能をより広い視野を持たせながら指導する。	①保健指導部や家庭科を中心に食育を行うとともに、望ましい生活習慣の維持について家庭の協力を得る。②体力・運動能力調査の結果を分析し、運動能力の向上や健康増進についての教育を行う。③一校実践運動の昼休み運動を体育科や生徒会を中心に推進する。
キャリア教育	適切な勤労観・職業観の形成や社会的・職業的自立、及び将来の自分の生き方に向けて必要な能力・態度の育成を図る。	①小中一貫教育の中で、共通した意識を持ってすべての教育活動をキャリア教育の視点で大切に実践する。②1年次ならびに2年次に福祉体験学習を通じて福祉に関する職業体験を行う。③3年次に進路情報の周知を徹底するとともに、きめ細かに相談活動を行い進路選択を援助する。
生徒指導	規範意識の向上と豊かな人との「つながり」を作るための指導を充実させる。日頃からの相談活動及びいじめの早期発見と問題への対応の充実を図る。	①集団生活の基本的なルールを確認し、誰もが気持ちよく過ごせる環境の維持に努める。②生徒が学校にいる時間、教職員は可能な限り生徒のそばにいて、いじめの早期発見に努めるとともに気軽に相談活動ができる雰囲気作りを進める。③インターネットやスマートフォンのマナーについて、定期的に指導をしていく。
特別支援教育	配慮が必要な生徒の一人ひとりのニーズに応じた教育ができるよう、特別支援教育に対する深い理解をもち組織的な活動を行う。	①特別な支援が必要な生徒について保護者と連携し、個別の指導計画に基づいた指導を行う。②ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業や学習環境づくりを行う。③学習ルーム(特別支援教室)を組織的に運営し、一人一人の状況に合わせた支援や指導を行う。
地域連携学校運営協議会	学校運営協議会での多角的な評価・助言を教育活動に生かすとともに、地域コーディネーターを中心に地域の教育力活用を推進する。	①学校運営協議会で、学校経営方針や生徒の活動について周知するとともに、第三者からの視点を学校運営に活かしていく。②地域コーディネーターのマネジメントで授業支援や図書・環境ボランティア、検定支援、わくわく交流会などで地域の教育力を活用する。
人材育成・組織運営	メンターチームの研修と校内全体研修を充実させ、授業力、生徒指導力、教育課題等への実践力を高める。組織の効果的運営のため、職員組織を改善する。	①メンターチーム研修を充実させ、若手の教育実践力を高めていく。②校内全体研修を計画的に行い、資質向上やリスクマネジメントを行う。③共有ファイルを積極的に活用するとともに、担当者同士のコミュニケーションをはかり、教育文化の継承と発展をはかる。
いじめへの対応	あらゆる教育活動を通じ、だれもが、安心して、豊かに生活できる環境をつくる。また、いじめのない集団や社会を形成するという意識を育むための取組をする。	①生徒との信頼関係を構築し、毎月の生活アンケートなどから、いじめの実態把握と未然防止に努め、生徒がいいきいと生活しやすい環境をつくる。また、情報モラル教育の推進による生徒の意識の向上を図る。②ESDの視点を大切に、様々な事象を多面的にとらえ、ともに自分たちの問題としてとらえ、主体的に考え、解決していく姿勢を育てる。